

トラック輸送情報（平成20年3月分）

平成20年6月17日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

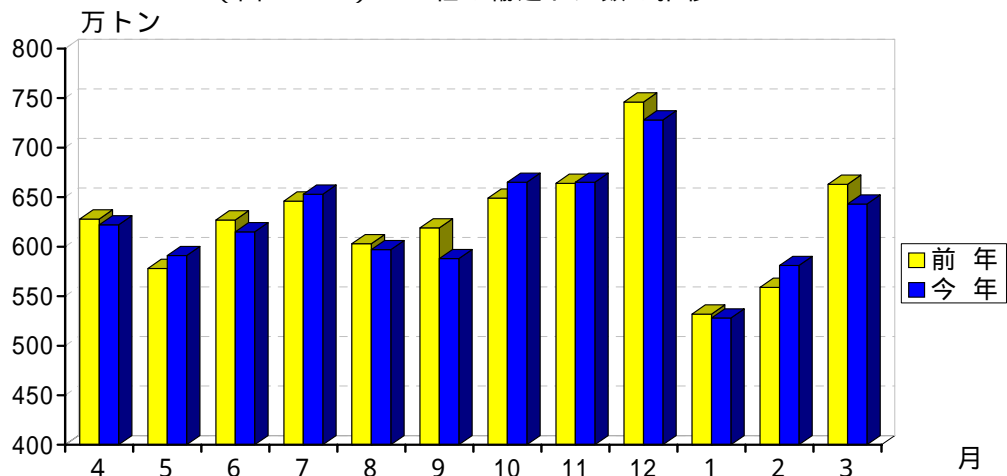
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,426,730トンで、前月と比べ総輸送量が約62万トン増加したため、前月比110.6%（季節調整済み99.0%）となり、前年同月との比較では、約20万トン減少したため、前年同月比96.9%の実績であった。

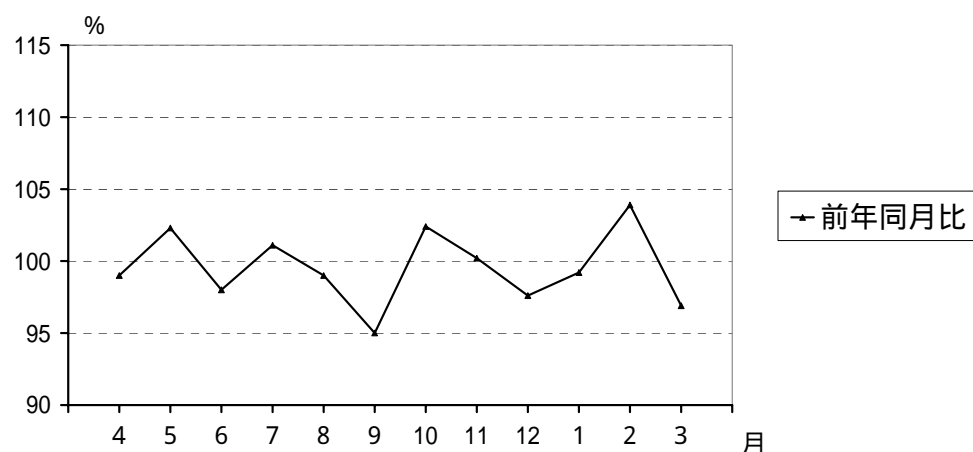
なお、平均稼働日数は24.3日で、前月と比べ0.9日の増加、前年同月と比べ0.8日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、264,474トンで、前月と比べ約1万6千トン増加したため、前月比106.5%となり、前年同月との比較では、約4百トン増加したため、前年同月比100.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

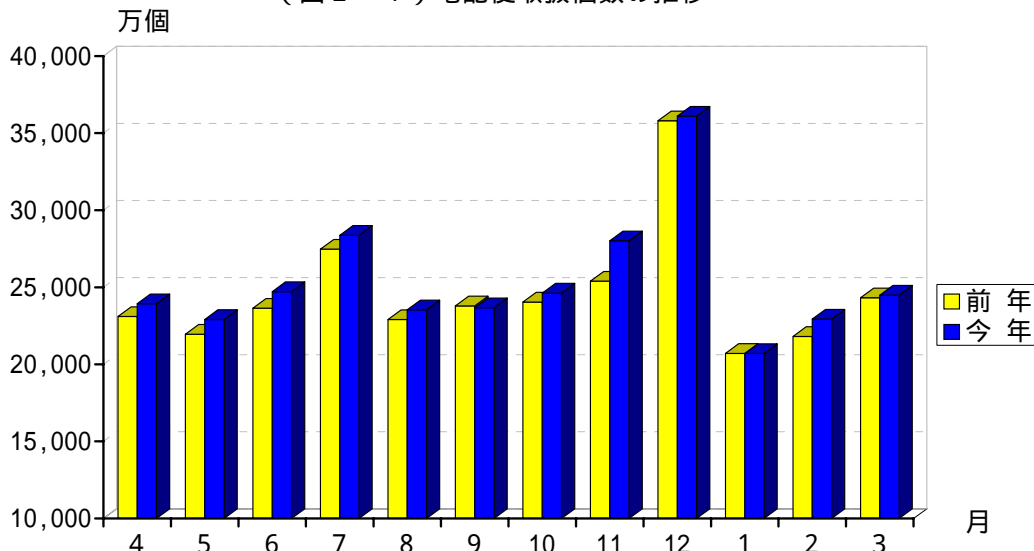


(2) 宅配便の概況

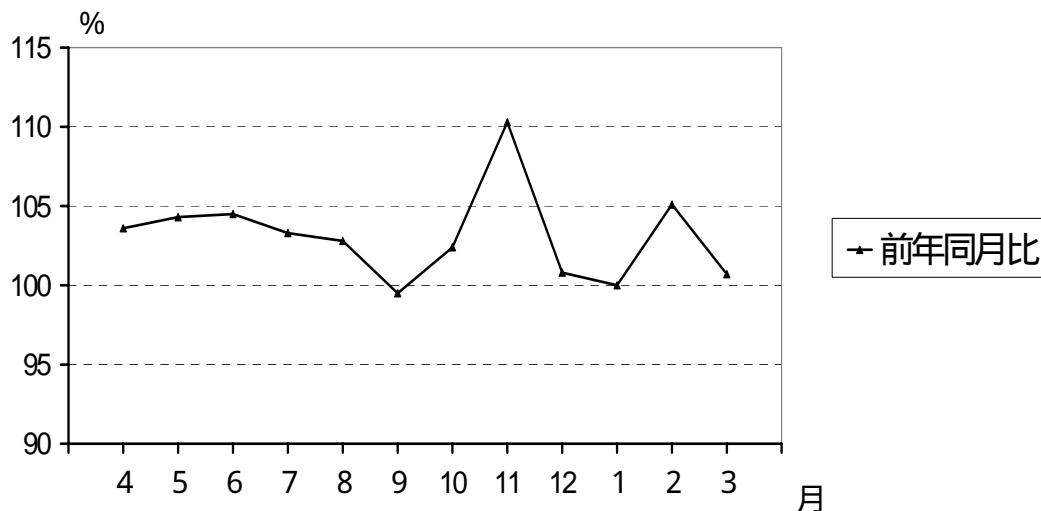
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、244,889 千個で、前月と比べ 約 1,558 万個増加したため、前月比 106.8% (季節調整済み 100.0%) となり、前年同月との比較では、約 172 万個増加したため、前年同月比 100.7%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 32 社の品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数が増加し、年度末にともなう需要増により貨物量が増加した。品目別では、すべての品目で増加がみられた。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増がほぼ共通してみられたほか、倉庫から出る貨物増及び季節的需要増による増加回答も多くみられた。地域的には、「農水産品」が東北、関東、中国で、「金属製品」が東京で増加したほか、他の品目においては、ほぼ全国的に輸送量が増加した。

前年同月と比べると、貨物量は減少した。品目別では、ほぼすべての品目で、減少回答がみられた。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がほぼ共通してみられたほか、倉庫から出る貨物減による減少回答も多くみられた。地域的には、「金属製品」が関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡で、「機械」が大阪で、「化学工業品」が関東地方、愛知、近畿、中国で、「食料工業品」が東北、関東で、「日用品」が北海道、東北、関東地方、近畿でそれぞれ減少した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	13		野菜、青果物	東北、関東、中国	4
	金属製品		6	21		その他の金属製品	東京	3
	機械		9	17	1	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7, 8
	化学工業品	1	12	15	1	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、神奈川、関東、愛知、近畿地方、中国、四国	4, 7, 8
	繊維工業品	1	7	19	2	織物	東北、関東地方、中部地方、兵庫、近畿、中国	4, 7
	食料工業品		10	14	3	その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、中部、近畿地方、中国、九州地方	8
	日用品	1	15	12	1	書籍・印刷物、文具、玩具、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	2, 4, 5, 7, 8
	その他	1	11	16		宅配便、百貨店配送品	関東地方、近畿地方、中国、全国	2, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	14	1	野菜	東北、関東	
	金属製品		1	17	8	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	機械	2	1	17	7	機械部品 その他の機械	関東 大阪	4, 7
	化学工業品		1	17	11	その他の化学工業品	関東地方、愛知、近畿、中国	4, 7
	繊維工業品			24	5		関東	4
	食料工業品		2	14	9	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東	4, 7
	日用品		2	17	9	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、近畿	4, 5
	その他		3	19	6		神奈川、関東	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 799 社 / 調査対象事業者数 1,057 社）の輸送量は、前月比 105.9%、前年同月比 103.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	105.9%	106.5%	108.9%	99.6%	111.3%	103.6%	108.0%	110.1%	103.3%	101.7%	108.0%
前年同月比	103.8%	112.0%	99.3%	96.2%	105.5%	101.5%	101.4%	103.0%	98.3%	101.4%	86.5%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 106.5%、対前年同月比 112.0%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の農産品」、「紙・パルプ」、「食料工業品」、「日用品」等の輸送量に増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「畜産品」、「化学肥料」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「揮発油」、「その他の石油製品」、「廃棄物」等の輸送量に減少がみられ、中でも、排雪運搬に係る「廃棄物」の減少は顕著なものであった。また、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 108.9%、対前年同月比 99.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「紙・パルプ」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「野菜・果物」、「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したほか、建設関連の需要減等により「金属製品」、「セメント」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 99.6%、対前年同月比は 96.2%であった。品目別には、季節的需要増により「化学肥料」の輸送量が増加した。一方、商社・問屋からの貨物減等により「紙・パルプ」の輸送量が減少したほか、「鉄鋼」、「その他の石油製品」、「その他の製造工業品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 111.3%、対前年同月比は 105.5%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「木材」の輸送量が増加したほか、商社・問屋からの貨物増等により「鉄鋼」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「その他の石油製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 103.6%、対前年同月比は 101.5%であった。品目別には、季節的需要増により「日用品」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「その他の窯業品」、「繊維工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 108.0%、対前年同月比は 101.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「機械」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「その他の化学工業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減により「セメント」、「繊維工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 110.1%、対前年同月比は 103.0%であった。全体的に増加品目が多く見られ、季節的需要増等により「その他の農産品」、「金属製品」、「化学肥料」、「日用品」、「その他の製造工業品」、「取り合せ品」等の輸送量に増加がみられた。中でも年度末の引越荷物増加による「取り合せ品」の増加が顕著であった。今後の輸送見通しは、次月は一時的に増加傾向と予想されるものの、以降は減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 103.3%、対前年同月比は 98.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、暫定税率の廃止を見越した消費者の買い控えの影響により「揮発油」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 101.7%、対前年同月比は 101.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「水産品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「化学薬品」、「紙・パルプ」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 108.0%、対前年同月比は 86.5%であった。品目別には、年度末の季節的需要増により「取り合せ品（引越貨物）」の輸送量に増加がみられた。一方、輸移出減により「金属くず（スクラップ）」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想されるが、1社による影響が強く、全体の8割が次月以降は減少するとみている。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増		2				1				1	4	
	減		2		1					2		5	
2. 野菜・果物	増			1	2				4	4		11	
	減	1	2	1	1				2	1		8	
3. その他の農産品	増	2			1			3		1	1	8	
	減									1		1	
4. 畜産品	増	2	1				1	1		1		6	
	減	1										1	
5. 水産品	増	1						2		3		6	
	減		1				1	1				3	
6. 木材	増	3	1		2			1		1	1	9	
	減	4	1		1			1		1		8	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増									1		1	
	減												
9. 金属鉱物	増												
	減		1									1	
10. 砂利・砂・石材	増	1			1		1	1		1		5	
	減	8			1		1	1		9		20	
11. 工業用非金属鉱物	増		2				1	1				4	
	減		3									3	
12. 鉄鋼	増		1		2			4		2	1	10	
	減	1	1	1	1			1		2		7	
13. 非鉄金属	増	1			1							2	
	減	1								1		2	
14. 金属製品	増	1		1	2	1	2	3			1	11	
	減		3		2		2	1		1		9	
15. 機械	増	1	2	1	1	1	5	4		3		18	
	減	1		2			1					4	
16. セメント	増	2	1		1	1		2		4		11	
	減	2	3		1		1	1		6		14	
17. その他の窯業品	増				1		1	2		3		7	
	減		2	1		1	1	1		6		12	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増			1						
	減	5							1			6
19. その他の石油製品	増									1		1
	減	4	1	1	5		1	1		2		15
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1			1				2
	減											
21. 化学薬品	増		1							2		3
	減		1		1					1		3
22. 化学肥料	増	3	1	1			1	2		1		9
	減							1		1		2
23. その他の化学工業品	増		1				2	2		1		6
	減							1				1
24. 紙・パルプ	増	4	3		1		1	1	1	2	1	14
	減		1	2						1		4
25. 繊維工業品	増					1				1		2
	減					2	1					3
26. 食料工業品	増	2	8	1	1		4	3	2	1		22
	減	1	2	1		1	2	1		3		11
27. 日用品	増	3	1			2	1	3		1		11
	減					1		1				2
28. その他の製造工業品	増	1	1			1	1	3				7
	減			1		1	1	2		2		7
29. 金属くず	増											
	減										1	1
30. その他のくずもの	増	1										1
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	3	3	1								7
	減	1		1								2
32. 廃棄物	増	4			1		1	1		3		10
	減	14								3		17
33. 輸送用容器	増	1			1					1		3
	減											
34. 取り合せ品	増	5	3	1	1		2	5	1	2	3	23
	減	1				1				1	1	4
35. その他	増		2	2	3	1	2			4		14
	減		1		3	1	2		1	1	1	10